

会議録(1)

会議の名称	第3回飯能市地域包括支援センター運営等協議会
開催日時	令和2年11月25日(水) 開会 午後1時30分 閉会 午後2時35分
開催場所	飯能市役所 本庁舎別館 2階 会議室1
会長氏名	大野 康
出席委員	打田 瑠美 大野 康 栗原 千秋 桑山 和子 齋藤 明 志田 朝夫 角田 七重
欠席委員	池田 徳幸 林 真由美
傍聴者の数	0人
会議次第	別紙のとおり
配布資料	別紙のとおり
事務局	健康福祉部長 町田 守弘 介護福祉課長 五十川 美也子 主査 平沼 正行 主査 栗島 祐介 主任 山川 美代 主事 三村 和也

会議録(2)

議事の概要（経過）・決定事項

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題
 - (1) 包括支援センターの活動報告について
 - (2) 包括支援センターの評価について
 - (3) その他
- 4 各地域包括支援センター多問題（虐待）ケースの報告
- 5 閉会

会議録(3)

発言者	発言内容
栗島主査	(開会)
大野会長	(資料4の非公開についての承認)
	「(1) 包括支援センターの活動報告について」を議題とする。
平沼主査	(資料1-1~1-5・資料2-1~2-5に基づき説明)
大野会長	議題(1)に関して質問・意見を伺いたい。
	(質問・意見なし)
大野会長	「(2) 包括支援センターの評価について」を議題とする。
平沼主査	(資料3・令和2年度 評価指標を活用した業務チェックシート レーダーチャート・別添1に基づき説明)
打田委員	地域包括支援センター包括の事業評価についてわかりやすい資料である。事業評価の評価指標にとらわれてしまい100パーセントに近づけようとするとならざるを得ないのではないか。新型コロナウイルスの影響で相談件数が増えているため、評価指標にとらわれすぎないようにしてほしいと考えた。
桑山委員	評価指標の点数を出すのは難しいと考えられる。評価指標の点数のつけ方について、どのように行っているか。
平沼主査	<p>国から示されている評価の留意点や評価の基準の資料があり、地域包括支援センターの管理者会議の際に情報を共有している。</p> <p>今年の6月末に評価を行い、新型コロナウイルスによる影響で開催ができなかったところについては、開催が出来なかったと評価を行った。</p> <p>また、国からの情報は地域包括支援センターと共有させていただく。今後は、管理者や携わる担当者に情報の共有を引き続き行っていく。</p>

志田副会長	<p>資料は、大変まとまったものである。国の制度に基づいて地域包括センターの事業評価が客観的にできている。これが基本になって財源や予算問題等が見えてくる資料であり、今後も続けてほしい。</p> <p>市民にも周知を行い、市・地域包括支援センターで定例会などを開催し、全体のレベルアップにつながる措置の取組をしていただきたい。</p> <p>地域包括支援センターと行政のコミュニケーションを現状どのように詰めているのか、戦術、狙いなどがわかれば教えてほしい。</p>
平沼主査	<p>事業評価を継続して行わないと、地域包括ケアシステムの構築、地域包括支援センターの運営の強化が続いていかないと捉えている。参考資料「令和2年度 評価指標を活用した業務チェックシート レーダーチャート」の2-(1)～2-(5)の評価指標が地域包括支援センターの運営の柱になっている。数値的に低い指標を中心に介護福祉課で分析して見えて来たものを、管理者会議、地域包括支援センターの専門職の会議の中で事業の展開方法の協議を行っている。また、権利擁護に関しては社会福祉士の会議の中で虐待対策・消費者被害対策を行うなど、個別の協議も行っている。</p> <p>現在、第7期介護保険事業計画に基づき地域包括支援センターの事業評価を行っているが、来年4月から第8期計画が始まるため現在担当者で策定をしている。第7期と第8期の違いは、第8期は目標の各取組を行う担当部署を明確に標記している。評価の取組を評価指標の一つと考えて、評価項目の達成状況を介護福祉課でとりまとめ、事業が地域包括支援センターの評価の視点を持つことができる計画を作成している。</p> <p>事業計画に対するPDCAも地域包括支援センターと共に評価しながら、飯能市版地域包括ケアシステムを強化していくために評価指標を使っていく予定である。指標の内容について、地域包括支援センターの職員も理解できるようなマニュアルの作成を検討している。</p>
志田副会長	<p>介護保険の充実と一般的な政策につながるので、積極的に進めていただきたい。</p>
桑山委員	<p>レーダーチャートの飯能市の項目は、基幹型地域包括支援センターととらえて良いのか、あるいは基幹型地域包括支援センターと介護福祉課と同じ評価と考えて良いのか。</p>
平沼主査	<p>基幹型地域包括支援センターは担当圏域を持っていない。基幹型地域包括支援センターの評価は、行政（保険者）と同じ評価指標で評価を行っている。</p>

齋藤委員	<p>事業評価によりレーダーチャートを作成しているが、事業評価は地域包括支援センターの業務量改善につなげることも目的であったのではないか。</p>
平沼主査	<p>地域ケア会議の中では、地域の課題の会議を開催すれば「マル」にするという認識にとらわれて、「マル」を目指すことで業務量が増えてしまうことがある。やり方や、相談業務を改善することはできないが、一つの会議について、管理者会議で話し合いをしながら業務のボリュームを増やさないような開催の方法について協議を行った経緯がある。</p> <p>一方で、個別のニーズの複雑化や相談業務、多問題ケースが減らない状況であり、業務量の改善には直接結びついていないのが現状である。</p> <p>回数によって指標の評価を行っているわけではないため、評価が上がったことによって業務量が増えたことにつながるわけではない。事業評価は多数の項目があることや、飯能市は地域によって高齢化率、相談内容が異なっていることから、すべての包括が100パーセントの指標で良いというわけではないと捉えている。地域の要因等に関しても、協議しながら評価指標を出している。</p> <p>休日・夜間帯の相談体制の評価についての視点もある。飯能市では休日・夜間帯の相談業務については包括に依頼していない。24時間対応にするかどうかの協議は行っていないが、相談時間を拡大しないから評価が低いということではない。平日の業務時間内に適切に対応をさせていただいており、保険者が求める評価に対しては達成できている状況である。</p>
齋藤委員	<p>評価を上げつつ、仕事量が減れば良いと感じた。</p>
齋藤委員	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で認知症の進み具合がよくない人が増えていると感じている。多問題ケースの資料を見ると件数は増えていないが、新型コロナウイルスの影響で認知症を含めてコロナの閉塞感の中で実際は多問題ケースの案件が増えているのではないか。</p>
平沼主査	<p>9月に行ったケアマネジャーを通じてのアンケート結果では、体力の低下、認知症の症状の進行による相談が増えている。地域の方からも同じ意見が挙がっている。</p> <p>サークル・集いの場の再開で、今後、コロナ禍の中でフレイルの対</p>

<p>大野会長</p>	<p>策を講じなければいけないという視点を共有できたところである。</p>
<p>五十川課長</p>	<p>「(3) その他」を議題とする。</p> <p>(地域密着型サービス事業者の実施指導について説明)</p> <p>(飯能市介護保険事業計画及び老人福祉計画 第8期計画策定について説明)</p>
<p>大野会長</p>	<p>評価の話で、地域包括支援センターができる際に、多くが在宅介護支援センターから移行した。また、飯能市の運営等協議会は法律に基づいて模範的・理想的な形態になっている。事業評価に関して、必要最小限のことを整えることが国の考えである。100点以下の項目は、最低限の評価は押さえることができている。</p> <p>緊急対応を除き、時間内で対応できることに関しては知恵を絞って対応が可能であると考えた。評価指標の達成に関して、包括の職員は当たり前のように出来るようになってきた。改善しながらやってきたことが評価につながるように仕組みの工夫をしていただきたい。事業評価のために他の業務がおろそかになってしまったり、職員が疲弊してしまうようなことにならないような体制にしていきたい。</p>
<p>平沼主査</p>	<p>(「4 各地域包括支援センター多問題(虐待)ケースの報告」について資料4に基づき説明)</p>
<p>平沼主査</p>	<p>(圏域別、地域包括ケアセンター別人口状況表について説明)</p>
<p>栗島主査</p>	<p>次回の運営等協議会は令和3年2月24日(水)飯能市役所別館2階 会議室1にて開催予定。</p>
<p>志田副会長</p>	<p>(閉会)</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。</p> <p>令和 年 月 日</p> <p>議長の署名 _____</p>	